



まぶたの重さ、気になりませんか？

—加齢性眼瞼下垂症について—

形成外科

吉澤 直樹

まぶたが重くて見づらく感じることはありませんか。もしかするとそれは加齢による眼瞼下垂症かもしれません。

まぶたは生まれてこのかた、ずーっとまばたいています。その回数は 1 分間に 10~20 回、1 日 8 時間寝ている人で年間ざっと 500 万回、ずーっとパチクリを繰り返しているのです。年齢を重ねるとともに動かしづらくなるのも、ごく自然なことと言えます。

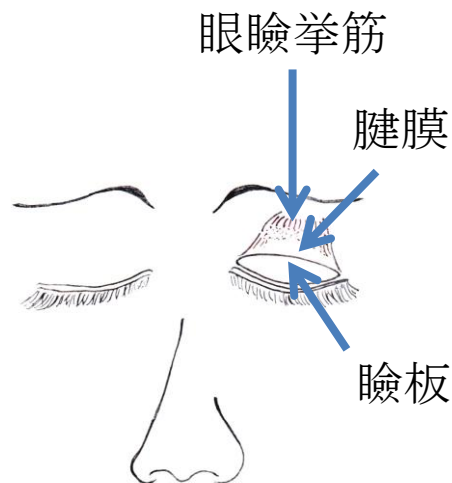
まばたきで動いているのは主に上まぶたです。縁には瞼板というやや硬い組織があり、これが芯となってまぶたを形作っています。これを目の奥にある眼瞼挙筋という筋肉が引っ張りあげますが、それは直接ではなく、腱膜という組織を介して行われています。

この腱膜が加齢によりゆるんでくると、筋肉の力が瞼板に効果的に伝わらず、まぶたが上がりにくくなってしまいます。また瞼板と共に持ち上がるまぶたの皮膚のたるみも、動きを重くする原因になっています。

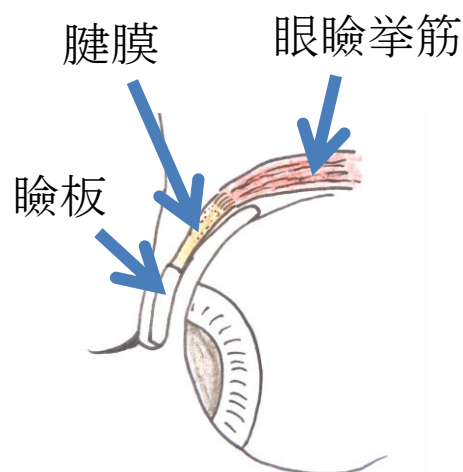
形成外科ではこれらの症状に対して、まぶたを開き易くする機能回復手術を行っています。まぶたはひとの印象を左右する大切な部分ですので、術後の傷跡や見た目の変化についても十分に説明し、ご理解いただくことを心がけて診療しています。

「まぶたのつくり」

(正面)



(横断面)



マスク着用にご協力ください



新型コロナウイルス感染

予防対策実施中！

